科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 5 月 29 日現在

機関番号: 1 2 6 0 1 研究種目: 挑戦的萌芽研究 研究期間: 2016~2017

課題番号: 16K13905

研究課題名(和文)LIBS-ICPMSタンデムシステムを用いた固体地質試料の多元素同時定量法の開発

研究課題名(英文)Development of analytical method for quantitative determination of multi-elements in geological samples by LIBS-ICPMS tandem system

研究代表者

石川 晃 (Ishikawa, Akira)

東京大学・大学院総合文化研究科・助教

研究者番号:20524507

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文):本研究では固体未知試料の元素組成を迅速に得る方法として、レーザー誘起ブレークダウン分光分析法(LIBS)とレーザーアブレーションICP質量分析法(LA-ICPMS)を組み合わせたタンデムシステムを用い、様々な地質試料中の主要-微量-揮発性元素を同時定量する分析手法開発を試みた。本実験の結果、現有のシステムでは(1)粉末を加圧成形した試料のアプレーション、(2)H20-C02濃度の同時分析は困難であることが判明したが、(3)ガラス化した試料の主要-微量元素濃度を迅速に測定する手法に対しては有用性が高いことがわかり、変成岩、蛇紋岩、各種堆積岩などを対象とした地球化学的研究へ応用を進めている。

研究成果の概要(英文): Simultaneous laser-induced breakdown spectroscopy (LIBS) and laser-ablation ICP mass spectrometry (LA-ICPMS) measurements were attempted to develop a simple analytical method for quantitative determination of whole-rock major, trace and volatile element concentration in geological materials. The method is potentially useful for rapid but quantitative evaluation of whole-rock compositions by multi-spot analyses on pressed powder pellets or cross-sections of rocks comprised of variable mixture of hydrous silicate, carbonate and phosphate minerals. However, present study revealed that simultaneous measurements of H2O, CO2 and other elements in heterogeneous samples were difficult to perform on pressed powder pellets or cross-sections with the use of 213nm Nd:YAG laser and single channel detector. Whereas, the LIBS-ICPMS tandem system can be applied for rapid determinations of major, minor and trace element concentrations in the fused-glass beads (rock powder + lithium tetraborate).

研究分野: 固体地球化学

キーワード: LIBS ICPMS 主要元素 微量元素 揮発性元素

1.研究開始当初の背景

分析前処理技術や測定機器性能の進歩に伴い、物質科学的研究における地球化学的解析の役割は年々高まっている。とりわけ、誘導結合プラズマ分析装置(ICPMS)の普及と感度・安定性の向上は、微量元素分析をごとっ般的なものとし、地質学、岩石学、鉱物をの固体地球科学分野の研究手法に対策を構成する主要元素や特に揮発性元素の定義が大量を構成する主要元素や特に揮発性元素の定法が必要となり(図1)未知試料の全岩化学組成(主要+微量+揮発性元素)を各研究者が大量に取得することは未だ困難な状況にある。



図1. 典型的な全岩化学組成分析のフローチャート

2. 研究の目的

本研究では固体未知試料の元素組成を迅速に得る方法として、惑星探査への応用が急速に進んでいるレーザー誘起ブレークダウン分光分析法(LIBS)と地球化学分野で既に汎用的なレーザーアブレーション ICP 質量分析法(LA-ICPMS)を組み合わせたタンデムシステムを用い、様々な地質試料中の主要一微量元素を揮発性元素と同時定量する分析手法開発を試みる(図2)。

測定物質へのパルスレーザー照射により 生成するプラズマを分光分析する LIBS は、 微量金属元素の検出限界は ICPMS に劣るが、 一般的な ICPMS 分析や蛍光 X 線 (XRF)分 析では測定不可能あるいは難しい軽元素や 揮発性元素が検出できるため、ICPMS と相 補的関係にある分析法といえる。ただし LIBS の定量分析は黎明期にあり、地質試料 に対する定量正確度や検出限界の報告例は 特定の実験条件に限られる。そこで本研究で は、代表的な標準ガラス、鉱物、岩石試料を 対象に主要元素と揮発性元素に関する LIBS と LA-ICPMS の最適分析条件と定量可能性 を元素毎に調べる。さらには、含水珪酸塩鉱 物や炭酸塩鉱物を様々な割合で含む堆積岩 試料の多元素同時定量分析に応用すること で、現時点における LIBS-ICPMS タンデム システムの実用性を評価する。



図 2 . LIBS と LA-ICPMS タンデムシステムによる 全岩化学組成分析のフローチャート

3. 研究の方法

本研究では、東京大学駒場キャンパスに設 置されている LIBS 装置 (Applied Spectra 社 J200) およびファラデー検出器を備えた磁場 型 ICPMS 分析装置 (Thermo Scientific 社 Element XR)を用いた。駒場設置のJ200は、 Nd:YAG 固体レーザー、試料セル(ガス流 量調整器つき) ツェルニ・ターナー型分光 器、ICCD 検出器から構成されている(図3)。 多くの LIBS 分析アプリケーションでは、高 いシグナルを得る目的で波長 1024nm の基本 波が広く用いられている一方、本研究ではア ブレーション時の熱影響を極力抑制し、 ICPMS による微量元素分析に適う条件が必 須なため、波長 213nm の第 5 高調波を用いた。 また、試料セルには He ガスを 1.0 L/min で流 した条件に絞って実験を行なった。一方で全 岩濃度定量分析が目的であるため、アブレー ション領域や形状について制限は与えてい ない。

分析条件の最適化や定量確度の評価は、標準岩石試料(粉末及び岩片)、先行研究により高精度データが既得されている各種無水珪酸塩鉱物(ざくろ石、単斜輝石、斜方輝石)や珪酸塩ガラス試料、合成実験により微量元素(白金族元素、Re、Cr、Mo、W、Cu、Co、Ge)が均質に注入された Fe-Ni 合金試料を対象に、(1)LA-ICP-MS による主要元素-微量元素同時定量分析及び、(2)LIBS スペクトルの採取について独立した実験を行った。これらの実験結果から、ICP-MS による主要-微量元素の定量とLIBS による H₂O や CO₂ 濃度の定量を同時に行える分析手法を探索した。

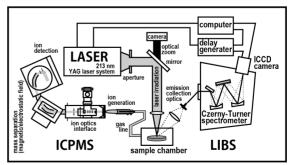


図3. 本研究で用いる LIBS-ICPMS タンデムシステムの概念図 (Latkoczy, C. and Ghislain, 2006 を改変).

4.研究成果

(1)LA-ICP-MS による主要元素-微量元素同時定量分析

Element XR ICPMS による主要元素-微量元素同時定量分析では、基本的な機器セッティング、モニターする質量数、データリダクション方法は Kimura and Chang (2012)を踏襲した。無水珪酸塩ガラス/鉱物試料に関しては、標準ガラス試料 (NIST612 もしくは BCR-2a)のシングルスポットアブレーション分析より濃度-信号強度の関係を導き、未知試料から得られた信号強度に適用すると同時に、分析元素全重量を 100%に規格化することで、内標準元素を用いることなく良好なデータが得られることを確認した。

一方、当初予定していた粉末ペレット試料を用いた全岩組成分析に関しては、フルーエンスを下げてアブレーションする必要があり、十分な強度の LIBS スペクトルが得られないと判断されたため、代わりに薄片岩石試料を対象に全岩化学組成定量分析を行う手法を探索した。その結果、比較的細粒な玄武岩標準試料(JB-2)においては 0.5x0.5mm 領域のマルチスポットアブレーションにより < 20%の誤差で主要 - 微量元素の定量分析が可能であることがわかった。

また、Fe-Ni 合金標準試料と既知の鉄隕石 試料の分析を行なった結果、不均質性を考慮 したマルチスポットアブレーションにおい ても、両者の間で整合性が取れた結果が得ら れなかったため、現在溶液法による再分析を 進めている。

(2)LIBS による揮発性元素スペクトル

揮発性元素に関しては、 H_2O や CO_2 濃度が先行研究により報告されている珪酸塩ガラス試料 (Shimizu et al., 2017)を利用して、各元素の検出に最適なセッティングを探索した。その結果、 水素 (H)に関してはマトリックス元素の影響が少ない 656 nm 付近のピークをモニターすることにより、最適な分析条件が得られたが、炭素 (C)に関しては多元素の妨害によりピーク検出自体が困難であることが判明した。従って、現有の検出系では H_2O - CO_2 同時分析は困難と判断し、炭酸塩鉱物を含む薄片岩石試料のマルチスポット定量分析は断念した。

そこで代替として、珪酸塩-炭酸塩-リン酸塩鉱物を様々な程度に含む岩石試料に応用可能な主要-微量元素濃度の簡易迅速分析手法の立ち上げに着手した。前年度に実施した実

験から、粉末を加圧成形した試料のアブレー ションは難しいことが判明していたため、ガ ラスビードサンプラーを設備備品として導 入し、四ホウ酸リチウムにより 10 倍に希釈 されたガラスビードを利用する手法を採用 した。(i) 蛍光 X 線分析による主要元素測 定の後に、希硝酸に溶解させて四重極 ICP 質 量分析計(Agilent 7500)により微量元素を測 定する手法、(ii)希硝酸溶解後、高分解能 ICP 質量分析計 (Element XR) により主要-微 量元素を測定する手法、(iii)ビードを直接 アブレーションすることにより、LIBS による Li/Ca 比測定と当時に LA-ICPMS により微量 元素を測定する手法、の3つの分析プロトコ ルを立ち上げ、変玄武岩、花崗岩、蛇紋岩、 チャート、砂岩、炭酸塩岩、リン酸塩岩の地 球化学的研究への応用を順次進めている。

引用文献

Latkoczy, C. and Ghislain T. (2006) *J. Anal. At. Spectrom.*, 21, 1152-1160.

Kimura, J.-I. and Chang, Q. (2012) J. Anal. At. Spectrom., 27, 1549-1559.

Shimizu et al. (2017) *Geochemical Journal*, 51, 299-313.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

Ishikawa, A., Suzuki, K., Collerson, K.D., Liu, J., Pearson, D.G., Komiya, T. Rhenium-osmium isotopes and highly siderophile elements in ultramafic rocks from the Eoarchean Saglek Block, northern Labrador, Canada: implications for Archean mantle evolution. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 查読有, 216, 286-311, 2017.

Komiya, T., Yamamoto, S., Aoki, S., Koshida, K., Shimojo, M., Sawaki, Y., Aoki, K., Sakata, S., Yokoyama, TD., Maki, K., Ishikawa, A., Hirata, T., Collerson, K.D. A prolonged granitoid formation in Saglek Block, Labrador: zonal growth and crustal reworking of continental crust in the Eoarchean. *Geoscience Frontiers*, 查読有, 8, 355-385, 2017.

Hanyu, T., Tejada, M.L.G., Shimizu, K., Ishizuka, O., Fujii, T., Kimura, J.-I., Chang, Q., Senda, R., Miyazaki, T., Hirahara, Y., Vagalov, B.S., Goto, K.T., <u>Ishikawa, A.</u> Collision-induced post-plateau volcanism: evidence from a seamount on Ontong Java Plateau. *Lithos*, 查読有, 294-295, 87-96,

2017.

Akizawa, N., Miyake, A., <u>Ishikawa, A.,</u> Tamura, A., Terada, Y., Uesugi, K., Takeuchi, A., Arai S., Tanaka, C., Igami, Y., Suzuki, K., Kogiso, T. Metasomatic PGE mobilization by carbonatitic melt in the mantle: Evidence from sub-μm-scale sulfide–carbonaceous glass inclusion in Tahitian harzburgite xenolith. *Chemical Geology*, 查読有, 475, 87-104, 2017.

Koshida, K., <u>Ishikawa, A.</u>, Iwamori, H., Komiya, T. Petrology and geochemistry of mafic rocks in the Acasta Gneiss Complex: implications for the oldest mafic rocks and their origin. *Precambrian Research*, 查読有, 283, 190-207, 2016.

Liu, J.G., Touboul, M., <u>Ishikawa, A.</u>, Walker, R.J., Pearson, D.G. Widespread tungsten isotope anomalies and W mobility in crustal and mantle rocks of the Eoarchean Saglek Block, northern Labrador, Canada: implications for early Earth processes and W recycling. *Earth and Planetary Science Letters*, 查読有, 448, 13-23, 2016.

Riches, A.J.V., Ickert, R.B., Pearson, D.G., Stern, R.A., Jackson, S.E., <u>Ishikawa, A.</u>, Kjarsgaard, B.A., Gurney, J.J. In situ oxygen-isotope, major-, and trace-element constraints on the metasomatic modification and crustal origin of a diamondiferous eclogite from Roberts Victor, Kaapvaal Craton. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 查読有, 174, 345-359, 2016.

Shimojo, M., Yamamoto, S., Sakata, S., Yokoyama, TD., Maki, K., Sawaki, Y., Ishikawa, A., Aoki, K., Aoki, S., Koshida, K., Tashiro, T., Hirata, T., Collerson, K.D., Komiya, T. Occurrence and geochronology of the Eoarchean, similar to 3.9 Ga, Iqaluk Gneiss in the Saglek Block, northern Labrador, Canada: evidence for the oldest supracrustal rocks in the world. *Precambrian Research*, 查読有, 278, 218-243, 2016.

[学会発表](計14件)

Sato, H., Ishikawa, A., Ferrière, L., Morgan, J.V., Gulick, S.P.S. and IODP-ICDP Expedition 364 Scientists. Highly siderophile elements and Os isotope signatures in the K-Pg transition of the Chicxulub peak-ring rocks. American Geophysical Union Fall Meeting P33D-2904 2017 年 12 月 11 日-12 月 15 日, ニューオーリンズ, アメリカ. Ishikawa, A., Akizawa, N., Kogiso, T., Suzuki, K. Re-Os and highly siderophile element systematics of peridotite xenoliths from Hawaii. Goldschmidt Abstracts, 2017, 1788. 2017 年 8 月 13 日-8 月 18 日, パリ, フランス.

Tokeshi, S., Ishikawa, A., Suzuki, K.

Determination of highly siderophile element concentrations and ¹⁸⁷Os/¹⁸8Os ratio for ferromanganese nodule reference materials. Goldschmidt Abstracts, 2017, 3952. 2017年8月13日-8月18日,パリ,フランス. Sato, H., Nozaki, T., Ishikawa, A., Onoue, T., Kimura, J.-I., Chang, Q. Suzuki, K. Osmium isotope and PGE signatures of the deep-sea deposits from Japan: implications for the Late Triassic impact event. Goldschmidt Abstracts, 2017, 3514. 2017年8月13日-8月18日,

パリ,フランス.

Goto, K.T., Hein, J.R., Shimoda, G., Aoki, S., Ishikawa, A., Suzuki, K., Gordon, G.W., Anbar, A.D. Molybdenum isotopes in modern marine hydrothermal Fe/Mn deposits: implications for Archean and Paleoproterozoic Mo cycles. *American Geophysical Union Fall Meeting*, V13E-2895, 2016 年 12 月 12 日-12 月 16 日, サンフランシスコ,アメリカ.

Ishikawa, A., Senda, R., Suzuki, K., Tani, K., Ishii, T. Re-Os isotope and highly siderophile element constraints on the origin of ancient depleted domains in the modern convecting mantle. *Goldschmidt Abstracts*, 2016, 1276. 2016年6月26日-7月1日,パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

Komiya, T., Aoki, S., Koshida, K., Tashiro, T., Yamamoto, T., <u>Ishikawa, A.</u>, Ishida, A., Hori, M., Igisu, M., Sano, Y. The Nulliak supracrustal rocks, Labrador, Canada: their occurrence, age, and the oldest evidence for life. *Goldschmidt Abstracts*, 2016, 1576. 2016年6月26日-7月1日,パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

Koshida, K., <u>Ishikawa</u>, A., Suzuki, K., Komiya, T. Re-Os constraints on the formation age of Acasta mafic rocks. *Goldschmidt Abstracts*, 2016, 1593. 2016年6月26日-7月1日,パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

Senda, R., <u>Ishikawa, A.</u>, Hanyu, T., Kawabata, H., Takahashi, T., Suzuki, K. PGE signature of an EM-1 mantle source, evidence from Pitcairn basalts. *Goldschmidt Abstracts*, 2016, 2800. 2016年6月26日-7月1日,パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

石川 晃, 小宮 剛, 鈴木勝彦, Kenneth D. Collerson, Jingao Liu, D. Graham Pearson 強親鉄性元素に枯渇した太古代マントルとその意義, 日本地球化学会第64回年会, 2017年9月13日-15日,東京工業大学大岡山キャンパス(東京都・目黒区).

石川 晃 鈴木勝彦 小木曽 哲 秋澤紀克, Highly siderophile elements in Hawaiian xenoliths: implications for the origin of low1870s/188Os signatures in oceanic mantle. 日本地球惑星科学連合連合大会 2017年大会 2017年5月20日-25日,幕 張メッセ(千葉県・千葉市).

石川 晃,鈴木勝彦,小木曽 哲,秋澤紀克,海洋島マントル捕獲岩の強親鉄性元素組成から探る核-マントル相互作用,日本地球化学会第63回年会,2016年9月14日-16日,大阪市立大学杉本キャンパス(大阪府・大阪市).

石川 晃, 宇都宮 敦, 越田渓子, Maria Luisa Tejada, 小宮 剛, 鈴木勝彦, 佐野貴司 オントンジャワ海台玄武岩の強親鉄性元素多様性 日本地球惑星科学連合連合大会2016年大会2016年5月22日-26日, 幕張メッセ(千葉県・千葉市).

羽生 毅, Maria Luisa Tejada, 清水健二, 石塚 治, 木村純一, 常青, 仙田量子, 宮崎隆, 後藤孝介, 石川 晃 A seamount on top of Ontong Java Plateau was created by remelting of plateau lithosphere by plate flexure 日本地球惑星科学連合連合大会2016年5月22日-26日,幕張メッセ(千葉県・千葉市).

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕 なし

6.研究組織

(1)研究代表者

石川 晃 (ISHIKAWA, Akira)

東京大学·大学院総合文化研究科·助教

研究者番号: 20524507

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

木村 純一 (KIMURA, Junichi)

国立研究開発法人海洋研究開発機構・地球内

部物質循環研究分野・分野長代理

研究者番号:30241730

平田 岳史 (HIRATA, Takafumi)

東京大学・大学院理学系研究科・教授

研究者番号:10251612

佐野 貴司 (SANO, Takashi)

独立行政法人国立科学博物館・地学研究部・ 研究グループ長

研究者番号: 40329579

清水 健二 (SHIMIZU, Kenji)

国立研究開発法人海洋研究開発機構・高知コア研究所・技術研究員

KONSTANTIN, Litasov

ロシア科学アカデミー・シベリア支部ソボレ

フ地質学鉱物学研究所・教授

SHARYGIN, Igor S.

ロシア科学アカデミー・シベリア支部ソボレ

フ地質学鉱物学研究所・研究員